

## シダ植物

<p><b>ミズスギ</b> <i>Lycopodium cernuum</i></p> <p>シダ植物門 ヒカゲノカズラ科</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 30cm 程度になる常緑シダ植物。葉は地上をはっており、小さな葉が密についていて柔らかい。胞子のうは葉の軸の先に小さな穂状につく。似た種類にヒカゲノカズラがあるが、本種では葉の軸は放物線を描くように湾曲し、胞子のう穂が下に垂れることで区別できる。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵地の湿った斜面に生育。丘陵山間地の水田のあぜにも見られる。</p> <p>【分布状況】 関東南部以西の本州～沖縄諸島に分布。県内では美濃地方の各務原市、関市、可児市、多治見市、瑞浪市、土岐市などに確認記録が見られる。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：市全域＞</p>
<p><b>ミズニラ</b> <i>Isoetes japonica</i></p> <p>シダ植物門 ミズニラ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 30cm 程度になる常緑シダ植物。葉は地上をはっており、小さな葉が密についていて柔らかい。胞子のうは葉の軸の先に小さな穂状につく。似た種類にヒカゲノカズラがあるが、本種では葉の軸は放物線を描くように湾曲し、胞子のう穂が下に垂れることで区別できる。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵地や低山地の谷間の湿地や湿田に生育。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布。県内では美濃地方の各務原市、関市、可児市、坂祝町などで確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>チチブホラゴケ</b> <i>Crepidomanes schmidtianum</i></p> <p>シダ植物門 コケシノブ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 常緑性シダ植物。糸状の根茎が長くはってまばらに葉が出る。葉は薄くて乾燥するとコケのようにしなびてしまう。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯山地の岩壁に着生して生育。空中湿度の高い場所や着生生物が常時湿っているような場所に見られ、石灰岩地帯に多いようである。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州中部～九州に分布。県内では美濃地方の関市板取で確認記録があるのみ。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：板取地域＞</p>
<p><b>タキミシダ</b> <i>Antrophyum obovatum</i></p> <p>シダ植物門 シシラン科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 常緑性シダ植物。葉は小型でやや長い柄が付く。葉は倒披針形から倒卵形で葉の先は急にとがる。大きなものは 20cm 程度になる。胞子のうは葉の裏に網目状につく。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯山地の谷間に生育。薄暗く湿った岩上に見られ、名前のように滝の近くに見られることも多い。</p> <p>【分布状況】 千葉県、富山県以西の本州～九州に分布。県内では美濃地方の山県市美山、郡上市美並町、揖斐川町久瀬、本巣市谷汲などで確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：板取地域、洞戸地域＞</p>
<p><b>デンジソウ</b> <i>Marsilea quadrifolia</i></p> <p>シダ植物門 デンジソウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 多年生の水生シダ植物。葉は"四つ葉のクローバー"のようで、見間違えることはない。葉の大きさは 2～4 cm。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯～山地帯の湿田や水湿地に生育。</p> <p>【分布状況】 北海道～沖縄諸島に分布。県内では美濃地方の美濃加茂市、関市、本巣市で確認記録があるが、近年では確認記録が全くない。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>

## 種子植物

<p><b>ミヤマツチトリモチ</b> <i>Balanophora nipponica</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 ツチトリモチ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 8～14cm の多年草。寄生植物で落葉広葉樹のカエデ類やシデ類などの根に寄生する。一つの花は微小で、茎の先に多数が卵状長楕円形の花序となつてつく。花序は長さ 3～5 cm、幅 15～20mm で、色は赤黄色～褐色である。</p> <p>【生育環境】 山地帯の落葉広葉樹林の林床に生育する。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の高山市上宝・久々野、美濃地方の郡上市明宝町、関市板取、本巣市根尾などで確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：板取地域＞</p>
<p><b>サクラバハンノキ</b> <i>Alnus trabeculosa</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 カバノキ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 5 m 程度になる落葉広葉樹。雄花序は枝先から垂れ下がり、雌花序は上向きに 4～5 個つく。果穂は長さ約 2 cm の卵状楕円形で、堅果には翼がない。葉の基部は鈍円形または浅い心形。表面はなめらかでやや光沢があり、裏面の主脈上に赤みを帯びた毛がある。ハンノキによく似ているが葉柄はハンノキより短い。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯の山間の湿地などに生育。山裾から水がにじみ出ているような湿地に見られる。</p> <p>【分布状況】 茨城県以西の本州、九州に分布。県内では美濃地方の中・東部地域に確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>ヌカボタデ</b> <i>Persicaria taquetii</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 タデ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 20～40cm の軟弱な 1 年草。花は枝の先にまばらに穂状につく。葉は狭披針形、両面に毛があり、質が薄く、乾くと緑色である。果実は 3 稜形で黒褐色、光沢があり長さ 1.5mm である。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の河川敷の水辺などに生育。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の高山市久々野・清見、美濃地方の川辺町、関市板取、揖斐川町久瀬で確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：板取地域、洞戸地域＞</p>
<p><b>シデコブシ</b> <i>Magnolia stellata</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 モクレン科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 4～5 m になる落葉広葉樹。花は白色でややピンク色を帯びており、径 7～10cm。がくと花弁は同じような色・形で見た目には十数枚の花びらがあるような感じである。葉は長さ 5～10cm の倒卵形。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵山間部の湿地に生育。貧栄養の湧水湿地の周辺に多い。</p> <p>【分布状況】 東海地方に固有の種。本州中部地方の伊勢湾に面した地域に分布。県内では美濃地方東部の東濃地域を主体とした地域に分布。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域、武儀地域＞</p>
<p><b>カザグルマ</b> <i>Clematis patens</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 キンボウゲ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 落葉性のツル植物。フジのように茎は木化している。花は白色で直径 10cm 前後ある。花びらに見えるのは「がく」で本来の花びらはない。クレマチスと呼ばれる園芸品種がある。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯にかけて、丘陵地から山地の林縁に生育。貧栄養の湿った場所に多く、未熟土壌地や石灰岩・蛇紋岩地などの特殊土壌地に見られる。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州北部に分布。県内では美濃地方の中・東部地域に確認記録が多く見られるが、飛騨地方の高山市などでも確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>

# 種子植物

<p><b>ヘビノボラズ</b> <i>Berberis sieboldii</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 メギ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 80cm 程度の落葉広葉樹。花は黄色で6枚の花びらからなる。実は赤く目立つ。葉のついている所の下側に鋭いトゲがある。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯の湿地に生育。山裾から水がにじみ出ているような貧栄養の場所に多く見られるようである。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州の中部地方南西部～近畿地方、九州の一部地域に限定して分布。県内では主として美濃地方の中・東部地域に確認記録が見られる。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ヒメコウホネ</b> <i>Nuphar subintegerrima</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 スイレン科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 葉を水面に浮かせる水生の多年草。葉は広い卵形で長さ 8 cm 前後、幅 6 cm 前後。花は黄色で径 4 cm 前後。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵山間部の池沼や農業用水池に生育。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州～九州に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の岐阜市、富加町などで確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>アゼオトギリ</b> <i>Hypericum oliganthum</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 オトギリソウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10～40cm 程度の多年草。茎も枝も倒れるようにほふくしていることが多い。花は黄色で径 2 cm 程度。1枚の花びらは 8 mm 程度の大きさ。朝開き夕方しぼむ。葉は長楕円形で対生。長さ 2 cm 前後。葉を透かしてみると細点状に明るく見える明点が密にあり縁には黒点が並んでいるのが特徴である。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯にかけての河川敷や田畑のあぜなど湿った草地に生育する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。関東以西の本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の下呂市萩原町、白川村、美濃地方の岐阜市、関市、可児市、多治見市などに確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域、武芸川地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>イシモチソウ</b> <i>Drosera peltata</i> <i>var. nipponica</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 モウセンゴケ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10～20cm 程度の多年草。食虫植物で葉の表には粘り気のある腺毛が密生し、そこにとまって動けなくなった昆虫などを消化して栄養分とする。花は白色で径 1 cm 程度、茎の上部に 2～10 個程度がつく。花は咲いたその日にしおれる一日花である。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵山間部にある日当たりのよい酸性土壌の湿地に生育。モウセンゴケよりやや乾いた立地に見られる。</p> <p>【分布状況】 関東以西の本州、四国、九州、西表島に分布。県内では美濃地方の中・東部地域に確認記録が見られる。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>コモウセンゴケ</b> <i>Drosera spathulata</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 モウセンゴケ科</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 5～15cm 程度の多年草。食虫植物で、葉の表には粘り気のある腺毛が密生し、そこにとまって動けなくなった昆虫などを消化して栄養分とする。花は淡紅色で径 1 cm 程度。茎の上部に 2～10 個程度がつく。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵山間部にある日当たりのよい酸性土壌の湿地に生育。</p> <p>【分布状況】 宮城県以南の本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では美濃地方の中・東部地域に確認記録が見られる。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>

## 種子植物

<p><b>イワレンゲ</b> <i>Orostachys malacophylla</i> <i>var. iwarenge</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 ベンケイソウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10～20cm の多年草。花の色は白色で、多数の花が密に穂状につく。花弁は倒披針形、鋭頭、長さ約 6 mm。葉は長楕円状さじ形で、長さ 3～7 cm、幅 7～25mm の多肉質で粉白色を帯びている。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の海岸の岩上、時に人家のわらぶき屋根上などに生育。</p> <p>【分布状況】 関東地方以西の本州、九州に分布。県内では飛騨地方の白川村、美濃地方の郡上市大和町、山県市美山、可児市で確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：板取地域、洞戸地域、武芸川地域＞</p>
<p><b>カキノハグサ</b> <i>Polygala reinii</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 ヒメハギ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 20～30cm になる多年草。花は黄色で長さ約 2 cm。葉は質うすく長さ 8～17cm、幅 3～7 cm でカキノ葉に似る。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の山地の林下に生育。山のやや乾いた木陰に生える。</p> <p>【分布状況】 本州の東海地方～近畿地方に分布。県内では美濃地方の山県市美山、本巣市谷汲、池田町、恵那市などで確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：武芸川地域＞</p>
<p><b>ヌマゼリ</b> <i>Sium suave</i> <i>var. nipponicum</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 離弁花亜綱 セリ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 60～100cm になる多年草。花は白色で微少な 5 弁花が茎の先に多数集まってつく。花柄は 7～12 個である。葉は単羽状で下部のものは 7～9 個の小葉がある。小葉は狭卵形～広披針形、長さ 3～10cm、幅 1～2 cm で上部のものは次第に小形になる。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯～山地帯の湿地に生育。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では美濃地方の各務原市、中津川市で確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>イワナンテン</b> <i>Leucothoe keiskei</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 ツツジ科</p>	<p>【形態の特徴】 崖などから枝を垂れ下げる常緑低木。枝の長さは 0.3～1.5m になる。花は白色で葉のわきから総状花序を出して数個垂れ下がって咲く。葉は互生し有柄で長さ 5～9 cm の卵状披針形。縁には鋸歯があり先は鋭くとがる。質は厚くて光沢がある。</p> <p>【生育環境】 山地帯下部の急崖地の岩上などに生育する。</p> <p>【分布状況】 本州（関東地方西部、中部地方南部、紀伊半島）に分布。県内では美濃地方の郡上市八幡町、関市板取、山県市美山、七宗町などで確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：板取地域、洞戸地域＞</p>
<p><b>イヌセンブリ</b> <i>Swertia tosaensis</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 リンドウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 30cm 程度になる 1～2 年生草本。センブリに似るが本種の葉は幅広く倒披針形であることで区別される。また、センブリには嚙むと苦味があるが、本種にはない。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の低湿地に生育し、農業用水池などの周辺や水田のあぜなどに見られる。</p> <p>【分布状況】 本州～九州に分布。県内では美濃地方の関市、大垣市上石津町などに確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>

## 種子植物

<p><b>セキヤノアキチョウジ</b> <i>Isodon effusus</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 シソ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 70～100cm 程度になる多年草。花は長さ 2 cm 程度で色は青紫色。全体的にアキチョウジに似ているが、花序は幅広く、花柄は長さ 10～25mm と長くて毛がないことなどで区別される。</p> <p>【生育環境】 山地帯の落葉広葉樹林の林床や林縁に生育。</p> <p>【分布状況】 本州の関東地方、中部地方に分布。県内では美濃地方の関市板取、多治見市で確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：板取地域&gt;</p>
<p><b>ミズトラノオ</b> <i>Pogostemon yatabeanus</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 シソ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 30～50cm 程度になる多年草。花は茎の先に穂状になって多数つき、色は淡紅色。葉は細長く茎に 4 枚ずつ輪生する。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の低湿地に生育。</p> <p>【分布状況】 本州～九州に分布。県内では美濃地方の関市、美濃加茂市、恵那市で確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域、武芸川地域&gt;</p>
<p><b>ミゾコウジュ</b> <i>Salvia plebeia</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 シソ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 30～70cm になる越年草。冬には大形のロゼット状の根出葉があるが花時には枯れている。茎の葉は短い柄があり葉身は長さ 3～6 cm、幅 1～2 cm。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の湿った草地に生育。河川敷や水田のあぜなどに見られる。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では美濃地方の岐阜市、各務原市、関市、大垣市、羽島市などで確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>イタカムシトリスミレ</b> <i>Pinguicula vulgaris</i> <i>var. floribunda</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 タヌキモ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 15cm 前後の多年草。スミレの名があるが全く別の種類。食虫植物で、葉の表面には粘り気のある微少な腺毛が密生し、そこにとまって動けなくなった昆虫などを消化して栄養分とする。花はスミレのような形をしており薄紫色。茎の先に 1 個ずつつく。</p> <p>【生育環境】 亜高山帯～高山帯の常時湿っているような岩や湿地周辺などに生育。</p> <p>【分布状況】 北海道、中部地方以北の本州、四国に分布。県内では飛騨地方の飛騨市神岡、上宝、白川村、美濃地方の本巣市根尾、関市板取で確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：板取地域&gt;</p>
<p><b>イヌタヌキモ</b> <i>Utricularia australis</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 タヌキモ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 水中に生育する浮葉性の多年草。葉は水面付近に浮いており、平面的に羽状に細裂する。食虫植物で葉に袋状の捕虫のうがあり微少動物を吸い込んで栄養分とする。花は水面からつきでた高さ 10～15cm の茎の先に 4～10 個つき、黄色で径 7 mm 程度。花のつく茎は葉のつく茎より太いのが特徴。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の低地～丘陵地の池沼に生育。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の関市、笠松町などで確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>

## 種子植物

<p><b>タヌキモ</b> <i>Utricularia japonica</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 タヌキモ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 水中に生育する浮遊性の多年草。葉は水面付近に浮いており、平面的に羽状に細裂する。食虫植物で葉に袋状の捕虫のうがある。花は水面からつきでた高さ 10～25cm の茎の先に 4～7 個つき、黄色。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯～山地帯の池沼や農業用水池などに生育。古い池に多く見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の郡上市大和町、岐阜市、関市などで確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域、武芸川地域&gt;</p>
<p><b>ミミカキグサ</b> <i>Utricularia bifida</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 タヌキモ科</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 7～15cm 程度の多年草。花は黄色で長さ 4 mm 程度。距がある。食虫植物で、地中茎に袋状の捕虫のうがあり微少動物を吸い込んで栄養分とする。葉はへら形で長さ 6～8 mm。地中茎の所々から出る。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯の湿地に生育。池沼の岸際に見られることもある。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では飛騨地方の高山市の外、主として美濃地方の中・東部地域に確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ホザキノミミカキグサ</b> <i>Utricularia racemosa</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 タヌキモ科</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10～30cm 程度の多年草。花は淡紫色で長さ 4 mm 程度。距がある。食虫植物で、地中茎に袋状の捕虫のうがあり微少動物を吸い込んで栄養分とする。葉はへら形で長さ 3 mm 前後。地中茎の所々から出る。</p> <p>【生育環境】 山地帯の湿地に生育。砂泥地やミズゴケ湿原などの場所に見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では飛騨地方の高山市の外、主として美濃地方の中・東部地域に確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ムラサキミミカキグサ</b> <i>Utricularia yakusimensis</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 タヌキモ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 7～15cm 程度の多年草。花は青紫色で長さ 3 mm 程度で距がある。食虫植物で、地中茎に袋状の捕虫のうがあり微少動物を吸い込んで栄養分とする。葉はへら形で長さ 4 mm 前後。地中茎の所々から出る。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の湿地に生育。湿潤な砂泥地に多く見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では主として美濃地方の中・東部地域に確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>キキョウ</b> <i>Platycodon grandiflorus</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 キキョウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 40～100cm 程度になる多年草。花は青紫色で径 4～5 cm。葉は長さ 4～7 cm、幅 3 cm 前後で下面はやや白みを帯びている。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯～山地帯の日当たりのよい草地に生育。二次草地に多く見られる。</p> <p>【分布状況】 日本全土に分布。県内では丘陵帯～山地帯に確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：板取地域、洞戸地域、武芸川地域、武儀地域、上之保地域&gt;</p>

## 種子植物

<p><b>ヒダアザミ</b> <i>Cirsium hidaense</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 キク科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 15～50cm 程度の多年草。花は赤紫色。</p> <p>【生育環境】 山地帯の落葉広葉樹林の林床に生育。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本県に限定して分布。県内では飛騨地方の飛騨市河合、下呂市、美濃地方の関市などで確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域、洞戸地域、板取地域&gt;</p>
<p><b>ハクサンアザミ</b> <i>Cirsium matsumurae</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 キク科</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 2 m 前後になる大型の多年草。花は赤紫色で、長い花茎の先に数個がつく。根出葉は花時にはない。茎につく葉は長さ 30cm 位になる。葉裏にはごくまばらに絹毛がある。</p> <p>【生育環境】 山地帯の落葉広葉樹林の林床に生育。</p> <p>【分布状況】 本州（石川県、福井県、岐阜県）の海拔 1,000～1,500m に分布。県内では飛騨地方の高山市上宝、白川村、美濃地方の郡上市白鳥町、揖斐川町藤橋、関市板取などで確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：板取地域&gt;</p>
<p><b>カセンソウ</b> <i>Inula salicina</i> <i>var. asiatica</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 キク科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 60～80cm となる多年草。花の色は黄色で径 4 cm 前後。葉は洋紙質で薄くて硬い。葉の縁には凸状のトゲのようなものがある。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯～山地帯の日当たりのよい山間湿地に生育。</p> <p>【分布状況】 日本全土に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の富加町などで確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ホソバニガナ</b> <i>Ixeridium</i> <i>beauverdianum</i></p> <p>種子植物門 双子葉植物綱 合弁花亜綱 キク科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 20～40cm 程度の多年草。花は黄色で径 6～7 mm 程度と小さい。また、キク科植物の花は多数の小花から構成されるが本種の場合は 5 個程度と少ない。葉は細長く線形で長さ 10cm 前後、幅 4 mm 前後。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の日当たりの良い草地に生育。</p> <p>【分布状況】 関東地方以西の本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の下呂市、美濃地方の関市で確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>アギナシ</b> <i>Sagittaria aginashi</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 オモダカ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 50cm 程度になる水生の多年草。花は白色で水面につきでた茎に先に数個の花をつける。葉はやじり形で細長い。似た種類にオモダカがあるが、アギナシは葉腋に多くの小球茎があり、走出枝はない。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯の水深の浅い池沼や湿地、水田に生育。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の飛騨市神岡町、高山市清見、久々野、美濃地方の関市、御嵩町、海津市などで確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>

# 種子植物

<p><b>スブタ</b> <i>Blyxa echinosperma</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 トチカガミ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10cm 程度になる水生の 1 年草。葉は水中にあり細長く 10～30cm。花は水面上に出て咲くが、花びらは細長く線状で目立たない。花の色は白色。次のヤナギスブタに似ているが葉が根生していて大きく茎がほとんどないことで区別できる。また、種子には楕円形の角がある。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の低地～丘陵地の農業用水池や湿田に生育。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の各務原市、関市などで確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>ヤナギスブタ</b> <i>Blyxa japonica</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 トチカガミ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10cm 程度になる水生の 1 年草。葉は水中にあり細長く 3～5cm。花は水面上に出て咲くが、花びらは細長く線状で目立たない。花の色は白色。スブタに似ているが茎があり葉が茎に互生していること、スブタより葉が小さいことで区別できる。また、種子には楕円形の角がない。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の低地～丘陵地の農業用水池や湿田に生育。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の関市、富加町などで確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>イトモ</b> <i>Potamogeton berchtoldii</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ヒルムシロ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 水中に生育する沈水性の多年草。葉は細長く長さ 2～4cm、幅 0.7～1.2mm。花は長さ 4cm 前後の穂状になってつく。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯の池沼、農業用水池、用水路などに群生して生育。</p> <p>【分布状況】 日本全土に分布。県内では美濃地方の関市、大垣市、輪之内町、海津市、郡上市八幡町などで確認記録がある。かつては低地の池沼やため池、小水路に広く見られたようである。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>ホッスモ</b> <i>Najas graminea</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 イバラモ科</p>	<p>【形態の特徴】 水中に生育する沈水性の 1 年草。葉は糸状に細長く長さ 2cm 前後、幅 0.5mm 前後。花は小さく目立たないが雄花と雌花がある。水中で受粉する。トリゲモによく似ており区別も難しいが、本種は雄花に苞鞘がないこと、葉鞘の先が耳状に突出することで区別される。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯、丘陵地～低山地の農業用水池や湿田に生育。貧栄養の水域に多く見られるようである。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の中津川市、富加町で確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>ミノコバイモ</b> <i>Fritillaria japonica</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ユリ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10～20cm 程度の多年草。黄白色の花を茎の先に 1 個つける。花は 5 枚の花弁よりなり、釣鐘型で下向きに咲く。</p> <p>【生育環境】 温帯林の林床に生育する。</p> <p>【分布状況】 本州の中部地方、近畿地方、四国に分布する。北陸地方、静岡から福島県には花被片（かひへん）の縁、中央脈内面に突起がある変種コシノコバイモが分布。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>

## 種子植物

<p><b>ミカワバイケイソウ</b> <i>Veratrum stamineum</i> <i>var. micranthum</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ユリ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 50～150cm の多年草。茎の先に小さな花が円錐状の花序を形成する。1つの花は白色で径 1 cm 程度。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵地山間にある日当たりの良い湿地や林縁に生育。</p> <p>【分布状況】 東海地方に固有の種（変種）。本州中部地方の伊勢湾に面した地域に分布。県内では美濃地方東部に確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ヒメシャガ</b> <i>Iris gracilipes</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 アヤメ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 15～30cm の多年草。花は淡紫色で中央にオレンジ色の斑点がある。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯の疎林内林縁に生育する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。北海道、本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の高山市、下呂市萩原町、飛騨市神岡町、高山市清見、美濃地方の関市板取、本巣市、恵那市などに確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：板取地域&gt;</p>
<p><b>ウンヌケモドキ</b> <i>Eulalia quadrinervis</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 イネ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 1 m 前後の多年草。花は赤褐色で、ススキの穂のように茎の先に枝を分け、各枝に小さな花が集まってひも状の花序を形成するが、枝の数は 4～7 本とススキよりもずっとまばらである。葉は長さ 40cm 前後、幅 5 mm 前後の線形で多くが根生する。似た種類にウンヌケがあるが、茎の基部が赤褐色で、葉鞘と呼ばれる所に毛がないことで区別できる。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の低地の日当たりが良い乾燥した場所に生育。</p> <p>【分布状況】 東海地方以西の本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では美濃地方の関市と土岐市で確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ウラシマソウ</b> <i>Arisaema ovale</i> <i>var. inaense</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 サトイモ科</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 40cm 前後の多年草。花は特殊な形をしており、仏炎苞と呼ばれる雨よけのついたコップのような筒の中にあり、外からは見えない。仏炎苞は濃紫色で雨よけ（舷部）の内側に白い条がある。葉は通常 1 つで鳥足状に 5～7 枚程度の小葉に分かれる。</p> <p>【生育環境】 山地帯の落葉広葉樹林の林床に生育。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州の長野県及び岐阜県に分布。県内では飛騨地方の高山市丹生川、高根、朝日などで確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：板取地域&gt;</p>
<p><b>ヒメザゼンソウ</b> <i>Symplocarpus nipponicus</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 サトイモ科</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 15cm 前後の多年草。花は仏炎苞と呼ばれる卵円形の頭巾（ずきん）のようなものの中にある。仏炎苞の色は暗紫褐色。葉は長さ 10～20cm、幅 10cm 前後で花の咲く前に展開する。似た種類にザゼンソウがあるが葉は 40cm と大きく花の咲いたあとに広がることで区別できる。</p> <p>【生育環境】 山地帯の山間湿地の流水が見られるような疎林内や林縁に生育。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州に分布。本州では日本海側の地方に多く分布。県内では飛騨地方の各市町村で確認記録がある外、美濃地方の富加町、多治見市でも確認記録が見られる。</p> <p>&lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>

# 種子植物

<p><b>イワチドリ</b> <i>Amitostigma keiskei</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10cm 程度の多年草。花はピンク色の唇形花で茎の上部にまばらな花序を形成してつく。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の樹林に生育。</p> <p>【分布状況】 本州の中部地方及び近畿地方、四国に分布。県内では美濃地方に確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>マメヅタラン</b> <i>Bulbophyllum drymoglossum</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 常緑の多年草。根茎は細長く這って 1 cm 程度の楕円形の葉をまばらにつける。花は淡黄色の唇弁形で長さ 8 mm 程度と小さく目立たない。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の主として常緑広葉樹林に生育。樹幹や岩上に着生して生活する。</p> <p>【分布状況】 関東以西の本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では飛騨地方の下呂市、美濃地方の美濃市、郡上市美並町、富加町、七宗町などで確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：市全域&gt;</p>
<p><b>エビネ</b> <i>Calanthe discolor</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 40～60cm の多年草。花は茶褐色～緑褐色で径 4 cm 程度。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯下部の丘陵地や山地の主として落葉広葉樹林の林床に生育。</p> <p>【分布状況】 北海道南西部、本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では丘陵地から低山地にかけてほぼ全域に点在して確認記録が見られる。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ナツエビネ</b> <i>Calanthe puberula</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 30cm 前後の多年草。花は淡紅紫色で、茎の先にまばらにな花序を形成し 10～20 個の花がつく。葉は数個根生し長さ 10～30cm、幅 3～8 cm。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯～山地帯の落葉広葉樹林に生育。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の高山市、美濃地方の郡上市明宝町、関市板取、大垣市上石津町、中津川市などで確認記録がある。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：板取地域&gt;</p>
<p><b>キンラン</b> <i>Cephalanthera falcata</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 40cm 前後の多年草。花は黄色で、茎の先にかたまるようにして複数個がつく。葉は茎に 6～8 個互生し、長さ 8～15cm、幅 4 cm 前後の楕円状披針形。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の丘陵地～低山地に生育。</p> <p>【分布状況】 本州（秋田県以南）、四国、九州に分布。県内では丘陵地～低山地に点在して確認記録が見られる。 &lt;関市内で生育する可能性がある地域：関地域&gt;</p>

## 種子植物

<p><b>クマガイソウ</b> <i>Cypripedium japonicum</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 20～40cm 多年草。花は淡紅紫褐色で、唇弁が袋状に膨らみ大きさは6～10cm ぐらいである。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯から山地帯の丘陵～低山地の樹林内に生育。本来の【生育環境】は常緑広葉樹林であると考えられるが、スギ植林や竹林に生育地が多く見られ。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では丘陵帯から山地帯の森林域に点在して確認記録が見られる。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>セッコク</b> <i>Dendrobium moniliforme</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 10～25cm の多年草。花は紅色を帯びた白色で径 3 cm 程度の大きさである。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯山地の常緑広葉樹林に生育し、樹上や岩上に着生する。</p> <p>【分布状況】 本州～沖縄諸島に分布。県内では美濃地方に確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：市全域＞</p>
<p><b>ヨウラクラン</b> <i>Oberonia japonica</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 下垂する長さ 10cm 前後の多年草。茎は長さ 4 cm 前後。葉はやや多肉質で長さ 1～3 cm、幅 3 mm 前後の披針形。茎に密につき互生。花は淡黄褐色で、茎の先に長さ 2～8 cm 程度の花序をつける。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の常緑広葉樹林などに生育。樹幹または岩上に着生して下垂する。</p> <p>【分布状況】 宮城県以南の本州、四国、九州、沖縄諸島に分布。県内では主として美濃地方の中・東部地域に確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域、武芸川地域、武儀地域＞</p>
<p><b>ウチョウラン</b> <i>Ponerorchis graminifolia</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 高さ 8～15cm の小型の多年草。5～10 個の紅紫色の花を茎の先の短い穂状花序に付ける。花径は 1 cm 程度。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯山地の湿った岩場に生育。</p> <p>【分布状況】 関東以西の本州、四国、九州に分布。県内では美濃地方に確認記録がある。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域、武芸川地域＞</p>
<p><b>カヤラン</b> <i>Sarcophilus japonicus</i></p> <p>種子植物門 単子葉植物綱 ラン科</p>	<p>【形態の特徴】 下垂する長さ 8 cm 前後の常緑多年草。葉は 2 列に互生し長さ 2～4 cm、幅 5 mm 前後の長楕円形。カヤの木の葉に似ている。花は淡黄色で長さ 8 mm 前後。長さ 3 cm 前後の花茎の先に 2～5 個つく。</p> <p>【生育環境】 丘陵帯の常緑広葉樹林などに生育。樹幹に着生して下垂する。</p> <p>【分布状況】 岩手県以南の本州、四国、九州に分布。県内では美濃地方の中・東部地域に確認記録が多い。 ＜関市内で生育する可能性がある地域：関地域＞</p>

## 哺乳類

<p><b>ミズラモグラ</b> <i>Euroscaptor mizura</i></p> <p>モグラ目 モグラ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 頭胴長 80～106mm、体重 25～35g。体毛は灰褐色～黒色である。前足は大きく、外形的には平野部の耕作地に多いコウベモグラに似るが、より小型で、尾が長い。</p> <p>【生息環境】 山地帯～亜高山帯の落葉広葉樹林内の土中に生息している。県内では確認個体が少なく不明な点が多い。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州に局地的に分布する。県内では白川村、高山市荘川町、中津川市付知町、恵那市岩村町、下呂市萩原町などで確認されている。</p> <p>＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域＞</p>
<p><b>ホンドモモンガ</b> <i>Pteromys momonga</i></p> <p>ネズミ目 リス科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 頭胴長 14～20mm、体重 150～200g のリスの仲間。体の割に目が大きい。体毛は背面が茶褐色で腹面は白色で、前足と後足の間にある飛膜を広げて空中を滑空する。</p> <p>【生息環境】 山地帯～亜高山帯の落葉広葉樹林などに生息。樹上で生活する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方及び美濃地方北部に点在して確認されている。</p> <p>＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域＞</p>
<p><b>ヤマネ</b> <i>Glirulus japonicus</i></p> <p>ネズミ目 ヤマネ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 頭胴長 65～80mm、体重は 14～20g だが、冬眠前は 30g 以上になる。体毛は淡褐色で、腹面は灰褐色である。尾にふさふさした毛があり、背中に黒褐色の線がある。</p> <p>【生息環境】 山地帯～亜高山帯の樹林に生息。山の中の人家で見つかることもある。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州、四国、九州に分布。県内では飛騨地方の神岡町、清見村、上宝村、朝日村、美濃地方の郡上市白鳥町・大和町、関市板取、恵那市加子母などで確認されている。</p> <p>＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域＞</p>
<p><b>カヤネズミ</b> <i>Micromys minutus</i></p> <p>ネズミ目 ネズミ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 頭から胴まで 6～8 mm、尾の長さ約 80mm で、背面は褐色で腹面は白色、体重約 10g である。</p> <p>【生息環境】 冬季は落ち葉や枯れ木などや地下に穴を掘り生息し、繁殖期の夏から秋には低地の水田、沼沢、河川敷のイネ科植物に鳥の巣のような球形の巣を作る。</p> <p>【分布状況】 本州福島県、新潟県以南（2002 年）に生息が報告されている。県内では瑞浪市、可児市、各務原市、岐阜市、羽島市に生息する。</p> <p>＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>

## 鳥類

<p><b>ヤマドリ</b> <i>Phasianus soemmerringii scintillans</i></p> <p>キジ目 キジ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体は 50cm 位であるが、雄の尾が長く全長で 1m を超える。雄は全体が赤褐色で頭から頸は赤味が強い。金属光沢がある。雌は全体が淡褐色でキジの雌に似る。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の樹林内に広く分布し、繁殖している。暗い林を好む。積雪の多い場所では低地に下りて生活する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種で本州、四国、九州に分布する。県内では、丘陵帯から山地帯にかけて広く分布し、一年中見ることができる。飛騨市、高山市、下呂市の他、山口市や岐阜市でも繁殖していると考えられる。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>オシドリ</b> <i>Aix galericulata</i></p> <p>カモ目 カモ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 45cm 位で、雄の風切羽の 1 枚がオレンジ色で帆のように立っており銀杏羽と呼ばれている。雄は派手な色彩をしているが、雌は全体に灰褐色で地味である。</p> <p>【生息環境】 繁殖期には丘陵帯から山地帯の池や沼、溪流に生息し、冬季は岩場の多い河川で生活する。大木のある寺社林や公園でも繁殖する。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州中部以北で繁殖し、冬季は本州以南に移動する。 県内では、高山市、白川村、郡上市、山口市、揖斐川町などで繁殖している。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域＞</p>
<p><b>カイツブリ</b> <i>Podiceps ruficollis poggii</i></p> <p>カイツブリ目 カイツブリ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 27cm 位でハトより一回り小さい。体上面は黒褐色で、夏羽では頬から前頸が赤褐色になるが、冬羽では黄褐色になる。体毛は、雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯の池や沼、淡水域から汽水域の河川に生息する。繁殖期は水草の多い場所、冬季は広い内水面に好んで生活する。</p> <p>【分布状況】 北海道から九州、南西諸島の水辺に広く分布する。県内では、岐阜市、各務原市、関ヶ原町、池田町、海津市などの池・河川で繁殖が確認されている。高山市で繁殖記録が 1 例ある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>アオバト</b> <i>Sphenurus sieboldii sieboldii</i></p> <p>ハト目 ハト科</p>	<p>【形態の特徴】 全長 33cm でキジバトとほぼ同じ大きさである。頭部、喉から胸は黄色味の強い緑色で背は灰色がかった緑色である。雄の翼は赤紫色で雌では全体に雄より淡い色をしている。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の主に落葉広葉樹林に好んで生息する。海水を飲むため、海岸の林でも見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道から九州まで広く分布する。県内では繁殖期、高山市、白川村、郡上市、山口市、揖斐郡、養老町、加茂郡などの山林で囀りを聞くことがあるが、巣はまだ見つかっていない。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、上之保地域＞</p>
<p><b>ミゾゴイ</b> <i>Gorsakius goisagi</i></p> <p>ペリカン目 サギ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 49cm 前後でカラス位の大きさである。体上面の色は茶褐色であり、腹部は淡褐色で黒褐色の縦斑がある。体毛は、雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の丘陵地、低山地の落葉広葉樹林に生息する。渡りの途中には森のある都市公園にも出現する。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州、近海の島々で繁殖する。九州以南では越冬する個体もある。県内では高山市、郡上市で確実な繁殖記録がある他、白川村、恵那市、瑞浪市、中津川市などで繁殖期に確認されている。また、岐阜市でも観察されたことがある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>

# 鳥類

<p><b>オオタカ</b> <i>Accipiter gentilis fujiyamae</i></p> <p>タカ目 タカ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 50-55cm のカラス位の大きさである。体の背面は黒褐色、腹面は灰白色で褐色の斑紋がある。目の上に白い斑紋（眉斑）がある。雌は雄より大きい。雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の丘陵地から山地の樹林に生息するが、樹林と農耕地がモザイク状にあるような里山に多く見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国で繁殖する。近年、九州でも繁殖が確認された。県内では、高山市、下呂市、郡上市、山県市、多治見市、本巣市など県下全域に確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、上之保地域＞</p>
<p><b>ツミ</b> <i>Accipiter gularis gularis</i></p> <p>タカ目 タカ科</p>	<p>【形態の特徴】 全長 27-30cm でハトより小さく日本で最小のタカ。雄の上面は青黒色で腹部は淡い橙色。雌は雄より上面は淡く、腹部には灰褐色の横斑がある。雌は雄より大きい。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の樹林内に生息する。市街地の樹林の多い公園や寺社林で繁殖するものもある。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に広く分布し繁殖するが、西日本では繁殖記録が少ない。県内では、2004年に加茂郡八百津町地内の山林で初めて繁殖が確認され、次の年も繁殖した。また、高山市内の山林でも繁殖が確認された。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：洞戸地域、武芸川地域、武儀地域＞</p>
<p><b>ハイタカ</b> <i>Accipiter nisus nisosimilis</i></p> <p>タカ目 タカ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 32-39cm、ハト位の大きさの小さなタカである。体の背面は青みを帯びた灰色で、腹面は白色で橙色の斑紋が密にある。雌は雄より一回り大きい。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯上部から山地帯の丘陵、山地の樹林に生息する。アカマツ林や落葉広葉樹林で見られることが多い。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州中部以北で繁殖する。冬季は西日本に渡る個体も多い。県内では、高山市で確実な繁殖記録がある他、下呂市、郡上市、揖斐川町などで繁殖期に確認されている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域＞</p>
<p><b>サシバ</b> <i>Butastur indicus</i></p> <p>タカ目 タカ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 50cm 位でオオタカより一回り小さい。上面は茶褐色で腹部は白く茶褐色の横斑がある。頭部は灰褐色で稀に全身が黒褐色の個体（黒化型）がいる。雌雄ほぼ同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の山林、里山に生息する。農耕地がモザイク状に入り込んだ谷地形の森を好む。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州で繁殖。冬は南西諸島以南に渡る。県内では、高山市、下呂市、恵那市、瑞浪市、関市、岐阜市などの丘陵帯で繁殖していることが確認されている。下呂市の御岳山麓や岐阜市の金華山では、多くの渡りが見られる。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>クマタカ</b> <i>Spizaetus nipalensis orientalis</i></p> <p>タカ目 タカ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 72-80cm 前後で、翼を広げると約 150cm の大きなタカである。体の背面は黒褐色、腹面は白色で黒褐色の斑紋がある。尾には太い横縞がある。雌は雄より大きい。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯上部から山地帯の森林に生息する。落葉広葉樹林や針葉樹と広葉樹の混交林に多く見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布するが西日本では減少しているという。県内では、飛騨市、高山市、郡上市、下呂市、揖斐川町、本巣市、八百津町などの山地帯で広く繁殖が確認されている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、上之保地域＞</p>

# 鳥類

<p><b>アオバズク</b> <i>Ninox scutulata japonica</i></p> <p>フクロウ目 フクロウ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 29cm 前後のハト位の大きさのフクロウである。体は背面は黒褐色で腹面は白色地に黒褐色の帯斑がある。足は黄色で目の光彩も黄色が目立つ。体毛は、雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯下部に生息する。低地から標高 1000m位までの樹林に見られるが里山に多く、市街地でも社寺林があるような場所では観察される。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島などに渡来し繁殖する。県内では、高山市、岐阜市、揖斐川町、大野町、御嵩町、本巣市で繁殖記録がある他、各地の丘陵帯で観察例がある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>
<p><b>コノハズク</b> <i>Otus scops japonicus</i></p> <p>フクロウ目 フクロウ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長約 20cm でムクドリ位の大きさで、日本産フクロウの中で最小である。全身が灰褐色で黒褐色の縦斑があり雌雄同色である。まれに全身が赤褐色の個体（赤色型）がある。</p> <p>【生息環境】 本州から九州では丘陵帯上部から山地帯の森林に生息し、北海道や本州北部では丘陵帯の森林や果樹園に生息する。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に渡来し、奥深い山地で繁殖する。県内では、白川村、郡上市、揖斐川町、本巣市などで繁殖期に轉りが確認されている。高山市で巣立ち直後の雛が保護された記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、上之保地域&gt;</p>
<p><b>フクロウ</b> <i>Strix uralensis</i></p> <p>フクロウ目 フクロウ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 50cm 前後のカラス位の大きさのフクロウである。体は灰褐色で黒褐色のまだら模様があり、雌雄同色である。くちばしは黄色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の大径木の多い樹林に生息する。境内の広い寺社林や大径木の多い公園でも見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州などに広く分布する。県内では、高山市、郡上市、下呂市、山県市、養老町、池田町などの丘陵帯から山地帯にかけて広く確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>
<p><b>ヤマセミ</b> <i>Ceryle lugubris lugubris</i></p> <p>ブッポウソウ目 カワセミ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 38cm 前後のハト位の大きさの大きなカワセミ類である。体は白色で頭と翼には黒白のまだら模様がある。雄の喉と胸に淡い錆色がある他はほぼ雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の河川中・上流域や湖沼・ダム湖で繁殖する。冬季は雑木林のある平地の河川で見られることもできる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に広く分布する。県内では、高山市、中津川市、郡上市、本巣市、大垣市などで繁殖の記録がある他、県下全域の河川中流から上流に確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、洞戸地域、上之保地域&gt;</p>
<p><b>ハヤブサ</b> <i>Falco peregrinus japonensis</i></p> <p>ハヤブサ目 ハヤブサ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 42-49cm でカラス位の大きさである。頭から背が暗青灰色で顔にひげ状の黒斑がある。下面は白っぽく黒斑が密にある。雌は雄より大きく、体毛は、雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 海岸の断崖や丘陵帯の山地の岩棚で繁殖するが、行動範囲は広く、河川流域や農耕地でも見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に広く分布する。主に島嶼や海岸の岩場で繁殖しているが、県内では岐阜市内の岩場において繁殖していることが確認できた。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：全域&gt;</p>

# 鳥類

<p><b>サンショウクイ</b> <i>Pericrocotus divaricatus</i> <i>divaricatus</i></p> <p>スズメ目 サンショウクイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 20cm 前後のスズメより一回り大きい鳥である。体の背面は灰色で腹は白色で、尾が長く体全体がほっそりした感じに見える。雄の頭部が雌に比べて黒い。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯下部の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林に生息する。里山にあるような広葉樹二次林を好むようである。</p> <p>【分布状況】 本州、四国では夏鳥として、九州、南西諸島では留鳥として分布する。県内では繁殖期に丘陵帯から山地帯下部に点在して確認記録があるが、毎年同じ場所で繁殖するとは限らない。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性がある地域：市全域&gt;</p>
<p><b>サンコウチョウ</b> <i>Terpsiphone atrocaudata</i> <i>atrocaudata</i></p> <p>スズメ目 カササギヒタキ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体はスズメより小さいが雄の尾が 30cm と長い。頭部から胸が黒っぽく、目の周りのコバルトブルーが目立つ。背は茶褐色で腹部は白い。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の樹林内に生息する。市街地の樹林の多い公園や寺社林で繁殖するものもある。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に広く分布し繁殖するが、西日本では繁殖記録が少ない。県内では、2004 年に加茂郡八百津町地内の山林で初めて繁殖が確認され、次の年も繁殖した。また、高山市内の山林でも繁殖が確認された。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性がある地域：板取地域、上之保地域&gt;</p>
<p><b>センダイムシクイ</b> <i>Phylloscopus occipitalis</i> <i>coronatus</i></p> <p>スズメ目 ウグイス科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 13cm でスズメより小さい。頭から上面が緑色味の強いオリーブ色で腹部は黄色味がある灰色をしている。体毛は、雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の樹林内に生息し、主に落葉広葉樹林を好む。メボソムシクイやエゾムシクイよりは標高の低い場所に生息する。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に広く渡来し山林で繁殖する。県内では、繁殖期に高山市、郡上市、下呂市、池田町などで囀りが確認されていて繁殖は確実と思われるが、巣は見つかっていない。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性がある地域：板取地域、上之保地域&gt;</p>
<p><b>トラツグミ</b> <i>Turdus dauma aureus</i></p> <p>スズメ目 ヒタキ科</p>	<p>【形態の特徴】 全長 30cm でハトよりやや小さいがツグミ類中最大である。頭部から背面は黄褐色で腹部は白い。黒褐色の斑が全身にあり虎斑模様となっており、雌雄同色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯から山地帯の暗い樹林で生活しているため、繁殖期はほとんど姿を確認できない。冬季は、樹林の多い公園や河川敷で見られる。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に留鳥として分布し、北海道では夏鳥となる。県内では、各地の丘陵帯から山地帯の林に広く分布するが、繁殖が確認されているところは少ない。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性がある地域：市全域&gt;</p>

## 爬虫類

<p><b>クサガメ</b> <i>Chinemys reevesii</i></p> <p>カメ目 イシガメ科</p>	<p>【形態の特徴】 甲長は雄 15～18cm、雌 25cm である。背甲には3本の明瞭な畝がある。頭部側面から頸部側面にかけて、黒縁の黄色い模様がある。高齢な雄は黒化する。</p> <p>【生息環境】 主に平地の河川、池沼にすみ、流れの緩やかな場所を好む。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布する。ただし、北東日本のどの地域までが自然分布域なのかは不明である。県内では飛騨地方にも見られるが、美濃地方に多い。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、武儀地域、関地域＞</p>
<p><b>ニホンイシガメ</b> <i>Mauremys japonica</i></p> <p>カメ目 イシガメ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 甲長は雄約 13cm、雌約 20cm である。背甲後部は鋸歯状で、腹甲は黒く、肛甲板の一部が橙色を帯びることがある。</p> <p>【生息環境】 平野部にも生息するが、丘陵地や山麓部の谷川や溪流にもすみすることができる。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州、四国、九州地方に分布する。ただし北東日本のどの地域までが自然分布域なのかは不明である。県内では飛騨地方にも見られるが、美濃地方に多い。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>ニホンスッポン</b> <i>Pelodiscus sinensis</i></p> <p>カメ目 スッポン科</p>	<p>【形態の特徴】 まれに甲長 35cm、体重 5 kg を超える大型個体が見られる。甲羅には甲板がない。吻端が細くとがっている。四肢には水かきが非常に発達しており、爪は3本である。</p> <p>【生息環境】 河川の下流～中流域あるいは平地から丘陵地にかけての池沼で、底生が砂もしくは泥であり、潜って身を隠せるような場所を好む。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州地方に分布する。ただし、北東日本のどの地域までが自然分布域なのかは不明である。県内ではこれまで美濃地方でしか確認されていない。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、武儀地域、関地域＞</p>

## 両生類

<p><b>ヒダサンショウウオ</b> <i>Hynobius kimurae</i></p> <p>有尾目 サンショウウオ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長8～15cmで地域差が大きい。紫褐色の体に黄～黄褐色の斑紋があるが個体差が大きい。後肢の指は4趾性のものもいる。幼生には黒色の爪がある。卵嚢はバナナ型である。</p> <p>【生息環境】 低地帯上部～山地帯に分布する。成体は森林の林床に生息し、幼生は沢などの流水中で生育する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州の中国地方から関東にかけて分布する。県内では美濃地方から飛騨地方にかけての山地に比較的広範囲に生息するが、平野部などでは見られず、主として自然度の高い山地に生息している。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：板取地域＞</p>
<p><b>コガタブチサンショウウオ</b> <i>Hynobius yatsui</i></p> <p>有尾目 サンショウウオ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長9～15cmで、体色は茶褐色もしくは暗褐色で銀白色の不規則な大小の斑紋が多数ある。斑紋は腹面にも及ぶのが特徴である。卵嚢はコイル状である。</p> <p>【生息環境】 丘陵地から山地までの河川の源流部やその枝沢周辺の林床に生息する。山腹斜面の土中に潜行し、溪畔の伏流水が流れる地下の岩や礫溪流に産卵する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。愛知・三重県及び京都府・兵庫県を除く関西地方、四国、佐賀・長崎県を除く九州に分布する。県内では、西濃・中濃・東濃地域及び飛騨地域南部で確認されている。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：板取地域、上之保地域＞</p>
<p><b>オオサンショウウオ</b> <i>Andrias japonicus</i></p> <p>有尾目 オオサンショウウオ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 大きな個体は全長1mを越える世界最大の両生類である。体は茶褐色で黒色の斑紋があるが、変異が大きい。頭部などに疣状の突起がある。眼は小さい。卵塊は数珠状である。</p> <p>【生息環境】 流水性で河川の中上流部に生息する。溪流だけでなく、川幅のある川、用水、小川でも発見されている。繁殖は上流部で行われることが多い。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。岐阜県以西の本州、四国及び九州の一部に分布する。四国は人為分布が疑われている。当県は分布東限付近である。県内では長良川流域及び飛騨川流域などに分布が見られる。人為的に移入された場所も知られている。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：市全域＞</p>
<p><b>アカハライモリ</b> <i>Cynops pyrrhogaster</i></p> <p>有尾目 イモリ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体長は10cm前後で、サンショウウオ類とは違って皮膚がザラザラしている。背中側は黒・茶褐色で、腹は赤地に黒の斑点模様になっている。赤みや斑点模様は地域差や個体差があり、ほとんど黒いものや全く斑点が無いもの、逆に背中まで赤いものもいる。</p> <p>【生息環境】 水田、池、川の淀みなど流れのない淡水中に生息する。繁殖期以外は水辺の近くの林や、クズなどの茂る草地の水気の多い枯れ草の下などに潜むことが多い。</p> <p>【分布状況】 日本に分布する唯一のイモリで、本州、四国、九州とその周囲の島嶼に分布する。北海道や伊豆諸島には分布していなかったが、人為的に移入により増し、問題となっている。奄美大島から沖縄本島にはシリケンイモリとイボイモリが分布する。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：市全域＞</p>
<p><b>ナガレヒキガエル</b> <i>Bufo torrenticola</i></p> <p>無尾目 ヒキガエル科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体長は雄7～12cm、雌9～17cmで、アズマヒキガエルに似るが鼓膜が小さく不明瞭である。幼生は真っ黒で口器が発達し頭が角張って見える。卵塊は紐状である。</p> <p>【生息環境】 成体は山地の溪流沿いや溪流付近の林床に生息し、繁殖は溪流で行われ、主に滝壺や流れの緩やかな淵に産卵する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。中部地方の西半分、近畿地方の山地。県内では、美濃地方から飛騨地方にかけての丘陵帯上部から山地帯で広い範囲で確認されている。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：市全域＞</p>

## 両生類

<p><b>ニホンアカガエル</b> <i>Rana japonica</i></p> <p>無尾目 アカガエル科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体長は5cm前後で、体色は赤褐色である。背中の中線にある隆条（背側線）は鼓膜の後ろで曲がらず直線的で、腹面は黄白色で斑点はない。幼生は背面に1対の黒点があるものが多い。</p> <p>【生息環境】 平地ないしは丘陵地の樹林に生息し、山地には少ない。繁殖は水の残った水田や湿地で行う。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州、四国、九州、隠岐、大隅諸島に分布する。八丈島は人為移入である。低地、丘陵地に生息しており、県内の主な生息地は美濃地方と考えられる。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>ナゴヤダルマガエル</b> <i>Rana porosa brevipoda</i></p> <p>無尾目 アカガエル科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 体長は雄3.5～6cm、雌4～7cmでずんぐりした体型であり足も短い。正中線を欠く個体が多い。体色の雌雄差はなく変異に富み、背面の黒色の斑紋は丸く独立する。</p> <p>【生息環境】 低地の水田とその周辺部に生息する。冬季も水田内及びその周辺で冬眠することが報告されている。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。長野県伊那谷、東海、近畿、瀬戸内地方に分布する。県内では美濃地方を中心に分布し、南部の水田地帯では比較的個体数が多い。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ナガレタゴガエル</b> <i>Rana sakuraii</i></p> <p>無尾目 アカガエル科</p>	<p>【形態の特徴】 雄の体長は3.8～5.6cm 雌は4.3～6cmで背面は暗褐色～赤褐色である。喉から胸にかけて黒褐色の白斑が密で後足の水かきが趾先まで発達していることで識別できる</p> <p>【生息環境】 標高1,000mまでの山地の溪流沿いや溪流付近の林床に生息する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。近畿地方、中部地方、関東地方に分布が散在している。県内の丘陵帯上部から山地帯で広い範囲で確認されているが、点的である。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>モリアオガエル</b> <i>Rhacophorus arboreus</i></p> <p>無尾目 アオガエル科</p>	<p>【形態の特徴】 体長は雄4～6cm、雌6～8cmである。吸盤が大きい。背部は明緑色～暗緑色で赤褐～黒色の斑紋を有する個体もある。虹彩は赤みがかかる。卵塊は泡状で約10cmである。</p> <p>【生息環境】 低地から亜高山帯まで分布するが、平野部にはあまり生息していない。森林で生活し、止水の上に産卵するため、両方の環境が存在するところに生息する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州および佐渡島に分布する。県内では主として美濃～飛騨の山地に生息し、東濃などでは局所的に分布するのみである。人為的な移動も多々行われており、本来の生息域であるか疑わしい場所もある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>
<p><b>シュレーゲルアオガエル</b> <i>Rhacophorus schlegelii</i></p> <p>無尾目 アオガエル科</p>	<p>【形態の特徴】 体長はオス3cm-4cm、メス4cm-5.5cmで、体色は腹側は白く背中側は緑色をしているが保護色で褐色を帯びることもある。モリアオガエルに似ているが、やや小型で、黄色い虹彩で区別できる。またニホンアマガエルとは、鼻筋から目、耳にかけて褐色の線がないこと、褐色のまだら模様が出ないことで区別できる。</p> <p>【生息環境】 山際の水田や森林等に生息し、4月から6月の繁殖期には谷間の石の下に集まって交尾をし、水辺の岸辺で泡で包まれた3cm-10cmほどの卵塊を産卵する。泡の中には200個-300個ほどの卵が含まれる。</p> <p>【分布状況】 日本の固有種で、本州・四国・九州とその周囲の島に分布する。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>

# 魚類

<p><b>スナヤツメ南方種</b> <i>Lethenteron sp. S</i></p> <p>ヤツメウナギ目 ヤツメウナギ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 15cm 程度に成長する。口には下顎がなく、鰓穴は 7 対である。北方種と外観で識別不可能だが簡便な DNA 解析を行うことで容易に識別可能である。</p> <p>【生息環境】 幼生は水の通りの良い細砂や泥中に潜っており、成魚は岸の植物の茂みの中などに潜んでいる。県内では比較的規模の大きい河川に見られる傾向にある。</p> <p>【分布状況】 本州・四国・九州に分布する。国外では朝鮮半島に分布する。県内では美濃地方・飛騨地方の比較的規模の大きい河川の上・中流域に見られるが、北方種と南方種の同所的に生息する小河川も確認されている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>ニホンウナギ</b> <i>Anguilla japonica</i></p> <p>ウナギ目 ウナギ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類</p>	<p>【形態の特徴】 成魚は全長 1m ほどの細長い体形で、体の断面は円形である。口は大きく体表は粘膜に覆われ、皮下に小さな鱗を持つ。背鰭、尾鰭、臀鰭がつながって体の後半部に位置している。また、産卵のため海に下る成魚は背中側が黒色、腹側が銀白色になる。</p> <p>【生息環境】 産卵場所はマリアナ海嶺のスルガ海嶺付近であり、孵化後 2 日目の仔魚を多数採集することに成功している。幼魚は川を遡上し、夜行性で、夜に甲殻類や水生昆虫、カエル、小魚などの小動物を捕食する。</p> <p>【分布状況】 日本全国の川の中流から下流、河口、湖などだが、内湾にも生息している。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>イチモンジタナゴ</b> <i>Acheilognathus cyanostigma</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠA類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 タナゴ類の中ではタナゴに次いで体高が低い。口髭は短く痕跡的である。体側に名のもとになった青緑色の一文字の縦条が見られる。</p> <p>【生息環境】 平野部の細流や水路の流れの緩やかな場所、池沼に生息する。泥底で水草が繁茂する場所に多い。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。琵琶湖淀川水系、紀ノ川水系、福井県三方湖、濃尾平野に分布する。県内は、濃尾平野の各河川に分布する。最近西日本の各地で分布が確認され、琵琶湖からの移入と考えられている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>シロヒレタビラ</b> <i>Acheilognathus tabira tabira</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 肩部に暗青色の斑紋と体側に暗色縦条がある。産卵期の雄の臀鰭の外縁部が白く縁取られて名前の「シロヒレ」のもとになっている。</p> <p>【生息環境】 平野部の河川敷内の池や本流から引かれた水路の流れの緩やかな場所に生息する。岩礁域や護岸の石垣の間や砂泥底部にすむ。</p> <p>【分布状況】 濃尾平野、琵琶湖淀川水系と、岡山県高梁川以東の瀬戸内海に流入する河川に分布する。国外では朝鮮半島中部及び中国大陸に分布する。県内では濃尾平野の河川に分布する。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>カワバタモロコ</b> <i>Hemigrammocyppris rasborella</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 5 cm で体高が高く、腹鰭より後方の腹部が側偏して竜骨状になっている。産卵期の雄は黄金色となる。</p> <p>【生息環境】 平野部の浅い池沼、ため池、流れの緩い小川や水路に生息し、表層付近を群で遊泳する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。静岡県以西の東海地方、濃尾平野、近畿地方、岡山県、四国北部、九州北西部に分布する。飛騨地域での生息記録はない。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>

# 魚類

<p><b>ヌマムツ</b> <i>Nipponocypris sieboldii</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 13cm で雄の方が大型となる。胸鰭と腹鰭の前縁は桃色、体側に幅の広い青紫色の明瞭な縦帯がある。カワムツとは、側線鱗数、臀鰭分岐軟条数により識別できる。</p> <p>【生息環境】 河川の中流から下流にかけての淵や平野部の池沼に生息する。近縁種のカワムツよりもさらに流れの緩い場所を好む。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。東海地方、濃尾平野、琵琶湖水系、山陽地方、四国北部、九州北部に分布する。県内では、飛騨地域での生息記録はない。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>ウシモツゴ</b> <i>Pseudorasbora pumila</i> <i>subsp.</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧 I A 類 岐阜県：絶滅危惧 I 類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 6 cm で側線は不完全で胸鰭上方までしか達しない。雌雄とも体側の縦帯がないか、あっても不明瞭である。産卵期の雄は、黒ずんだ体色となり、頭部に追星が出る。</p> <p>【生息環境】 山地が迫ったため池、平野部のため池、流れの緩い用水路に生息する。モツゴよりも深い場所に生息するとされている。</p> <p>【分布状況】 当県、愛知県、三重県に生息するが、その分布は極めて局所的である。国外からの報告はない。飛騨地方には生息しない。県内での生息地は非公表とする。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>イトモロコ</b> <i>Squalidus gracilis gracilis</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 6 cm で側線鱗は他の鱗より幅が広く、側線の上下に三角形の暗色斑がある。産卵期の雄には胸鰭に追い星がでる。一対の口髭がある。</p> <p>【生息環境】 河川の中下流域や、用水路の流れの緩やかな砂底、砂礫底に生息する。主として底層を遊泳する。</p> <p>【分布状況】 濃尾平野以西の本州、四国北東部、九州北西部、老岐島、五島列島に分布する。国外には生息しない。県内では、美濃地方に生息する。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>ヤリタナゴ</b> <i>Tanakia lanceolata</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 タナゴ類の中では体高が低い。長い一対の口髭を持つ。肩の暗色斑はなく、体側の暗色縦条も不鮮明である。産卵期の雄は体側前半部が赤紅色を帯びる。</p> <p>【生息環境】 平野部の細流や用水路などのやや流れのある場所を好むが、池沼の沈礁や杭などの周辺にも生息する。</p> <p>【分布状況】 北海道と南九州をのぞく各地に分布する。国外では朝鮮半島に分布する。県内では美濃地方の平野部各地の小河川や水路に分布する。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武芸川地域＞</p>
<p><b>アブラボテ</b> <i>Tanakia limbata</i></p> <p>コイ目 コイ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体高は比較的高く、側扁する。一対の口髭を持つ。肩部の斑紋と体側の縦条はない。体は幼魚時から黒ずみ、他種との識別は容易である。産卵期の雄は体側が暗黄緑褐色になる。</p> <p>【生息環境】 水のきれいな平野部の中小河川や、本流から引かれた灌漑用水路などに生息する。池や湖などの静水域には普通生息しない。</p> <p>【分布状況】 濃尾平野以西の本州、淡路島、四国瀬戸内海側、鹿児島県北西部までの九州に分布する。日本海側では京都府由良川水系と島根県江の川水系に不連続分布する。県内では美濃地方の平野部に分布する。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域＞</p>

# 魚類

<p><b>トウカイコガタス ジシマドジョウ</b> <i>Cobitis minamorii tokaiensis</i></p> <p>コイ目 ドジョウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類</p>	<p>【形態の特徴】 体長は 10cm ほどで、口元に、6本の口ひげがあります。体側に筋状の模様があり、斑点状の多種のどじょうと区別できます。藻類や水生昆虫を食べる雑食性です。</p> <p>【生息環境】 砂泥底の小川や農業用水路などに生息。河川本流には少ない。産卵は水田で行われる。雑食性。</p> <p>【分布状況】 近年の研究で本種は大型種、中型種、小型種の3種に区分され小型種はさらに8型に区分される。このうち県下は静岡県太田川～三重県宮川までの東海地方に分布域をもつ小型種東海型の分布域とされ、木曾三川流域の中・下流部で確認記録がある。しかしながら、県下ではアユの種苗などに混入して移入したと考えられる琵琶湖産の大型種もあり、過去の記録ではこれらが明確に区別されていないため、本来の生息種である「小型種東海型」の【分布状況】は詳しく分かっていないのが現状である。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ホトケドジョウ</b> <i>Lefua echigonia</i></p> <p>コイ目 ドジョウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 8cm 程度まで成長する。体は円筒形で細長く、頭部は縦扁する。口髭は4対で、3対は上唇に、1対は鼻孔から発達する。側線は発達せず、鱗は楕円形で大きい。</p> <p>【生息環境】 平野部や丘陵地帯の最奥部の山が迫った場所にある谷や用水路などに生息する。流れが緩やかで、底質が泥の場所に多い。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。青森県・中国地方西部を除く本州、四国東部に分布する。揖斐川、長良川、土岐川の各水系の平野部および丘陵地帯の奥まった場所にある水路では多くの場所で生息が確認される。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>アジメドジョウ</b> <i>Niwaella delicata</i></p> <p>コイ目 ドジョウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長は約 10cm で、他のドジョウと比べ体形は細い。シマドジョウに似ているが、目を通る線状の模様がなくて見分けられる。体側中央から背面にかけて暗色の虫食い状の斑紋が入る。生息地域や個体によって変異が多い。雲状や点列になることもある。腹側は白色である。</p> <p>【生息環境】 底質が礫の河川の上、中流域に生息する。冬季になると伏流の水底に潜り越冬する。食性は雑食で、主に藻類等を食べる。</p> <p>【分布状況】 木曾三川流域の底質が礫の河川の上、中流域に生息する。冬季になると伏流の水底に潜り越冬する。食性は雑食で、主に藻類等を食べる。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：全域&gt;</p>
<p><b>ネコギギ</b> <i>Pseudobagrus ichikawai</i></p> <p>ナマズ目 ギギ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 12cm で尾鰭後縁の切れ込みは深い。近縁種のギギと比較して、尾柄高が高く体長の 9.0～13.1% で、臀鰭の条数が少ない。雄が雌よりも大きい。</p> <p>【生息環境】 清澄な河川の中流の緩流域、大岩・浮き石の下や、川岸の洞（うろ）など入り組んだ場所に潜む。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。当県、三重県、愛知県の伊勢湾および三河湾に注ぐ河川の中流域のみに分布するが、各河川での生息場所の範囲は狭く分布は局所的である。県内では、揖斐川、長良川、木曾川に分布する。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>
<p><b>アカザ</b> <i>Liobagrus reinii</i></p> <p>ナマズ目 アカザ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長は 10cm ほどで、体色はやや赤色がかかるが地域変異が大きい。同じナマズ目のギギやキバチに似るが、他種と比べて頭部が小さく側線が胸鰭の後ろ近辺までしかないという違いがある。口ひげは上顎に2対、下顎に2対の計8本である。胸鰭に1本ずつ、背鰭に1本の刺条を持つ。刺条には毒腺があり、刺されると痛む。背鰭の後部には脂鰭がある。</p> <p>【生息環境】 水のきれいな川に生息する。岩場の隙間などに隠れることが多く、夜間や水の濁った時に活動し、主に水生昆虫を捕食する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種で、秋田県、宮城県以南の本州と四国、九州に分布する。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>

# 魚類

<p><b>サツキマス(アマゴ)</b> <i>Oncorhynchus masou ishikawae</i></p> <p>サケ目 サケ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 降海型では 25-50cm、河川残留型では 20-25cm で、サクラマス（ヤマメ）とは異なり、体側に明瞭な朱紅点を持つ。降海型のサツキマスには雌が多い。</p> <p>【生息環境】 降海型のサツキマスは上流域（渓流域）まで遡上し、産卵できる流域全体が自然豊かな河川に生息する。河川残留型のアマゴは河川上流域に限り生息する。</p> <p>【分布状況】 神奈川県以西の本州の太平洋側、四国、大分県以北の九州瀬戸内海側に分布する。国外には生息しない。県内では、長良川、木曾川、揖斐川に生息する。 &lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ニホンメダカ</b> <i>Oryzias latipes</i> (キタノメダカ) <i>Oryzias sakaizumii</i> (ミナミメダカ)</p> <p>ダツ目 メダカ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 ニホンメダカは、ダツ目 メダカ科（アドリアニクチス科）に属する魚。体長 4cm 程の淡水魚。目が大きく、頭部の上端から飛び出していることが、名前の由来になっている。側線はなく、背びれはかなり後ろにあり、腹びれの前端より後ろ。腹びれは前後に長い。</p> <p>【生息環境】 流れのゆるい小川や水路などに生息し、動物プランクトンなどを食べる。</p> <p>【分布状況】 シーボルトによって、1823年に初めて報告され、日本全域に棲息する最も小さな淡水魚である。遺伝的グループとして北日本集団と南日本集団に大別される。 &lt;関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>カマキリ(アユカケ)</b> <i>Cottus kazika</i></p> <p>スズキ目 カジカ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 20cm で、体はずんぐりし、頭が大きく、体に鱗はない。口蓋骨に歯がある。体側に 4本の暗色帯、鰓蓋後縁の棘は 4本ある。</p> <p>【生息環境】 稚魚期以降は礫の多い河川の中流域の瀬で底生生活する。繁殖は沿岸海域で行う。孵化仔魚は海域で生活する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。太平洋側では茨城県、日本海側では秋田県以南の本州、四国、九州に分布する。県内では長良川水系及び揖斐川水系の中流域に分布する。 &lt;関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>カジカ小卵型</b> <i>Cottus reinii</i></p> <p>スズキ目 カジカ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 17cm で体はずんぐりし、鱗はない。大きな胸鰭の軟条数は 15~17本で体側に 4、5本の暗色斑がある。鰓蓋後縁の棘は 1本である。</p> <p>【生息環境】 稚魚期以降は礫の多い河川中流域で底生生活し、そこで繁殖する。孵化仔魚は沿岸海域で浮遊生活する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州と四国の太平洋側に流入する河川に分布する。県内では長良川及び揖斐川水系に分布する。仔魚は河口の沿岸付近に、稚魚期から成魚は河川の中流域に分布する。 &lt;関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>ドンコ</b> <i>Odontobutis obscura</i></p> <p>スズキ目 ドンコ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長は 15cm 程度で体はずんぐりして頭部はやや縦扁、尾部は側扁する。体は鱗に覆われ、体色は暗色で、第 1背鰭と第 2背鰭の下方に黒色斑がある。</p> <p>【生息環境】 平野部や丘陵地帯を流れる小河川やため池に生息する。底質が泥で岸に植物が繁茂する場所で生育し、大きめの礫が多い場所で繁殖する。</p> <p>【分布状況】 愛知・新潟以西の本州、四国、九州に分布する。国外では中国大陸南部の内陸地域に分布する。県内では長良川と揖斐川水系の支流に生息する。 &lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>

# 魚類

<p><b>オオヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius sp. LD</i></p> <p>スズキ目 ハゼ科</p>	<p>【形態の特徴】 全長 10cm 程度に成長し、日本産ヨシノボリ類としては大型である。胸鰭の根元に明瞭な黒色斑が 1 個ある。産卵期の雄は全身が黒くなる。</p> <p>【生息環境】 大河川の中流域や上流域に生息する傾向にある。早瀬や淵頭の急流に生息するとされるが、本流に注ぐ小さな河川のような流れの緩い場所にも生息する。</p> <p>【分布状況】 本州・四国・九州に分布する。国外からは知られていない。県内では、これまで長良川にのみ記録があったが、岐阜県博物館に木曾川水系産の標本が収蔵されており、2008 年の岐阜県レッドリスト調査において土岐川水系でも確認された。 &lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>トウカイヨシノボリ</b> <i>Rhinogobius sp. TO</i></p> <p>スズキ目 ハゼ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 全長 5 cm 程度で、前鰓蓋管がないことで他の日本産ヨシノボリ属と区別される。体色は褐色でやや不定型の斑紋があり、雄の喉部は橙色になる。</p> <p>【生息環境】 ため池や流れのゆるい泥底の水路に生息する。ため池などから流下した個体が流れのある河川で採集されることがあるが、主たる生息地は止水域である。</p> <p>【分布状況】 2005 年に報告された東海地方固有種である。当県、愛知県、三重県に分布する。県内では美濃地方の平野部から中山間地に分布する。 &lt;関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域、武儀地域&gt;</p>

## 昆虫類

<p><b>アオハダトンボ</b> <i>Calopterys japonica</i></p> <p>トンボ目 カワトンボ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅の長さ 36mm 前後のトンボである。体の色は緑色で強い金属光沢があり輝いている。翅は透明ではなく黒褐色で腹長は 44mm 前後である。</p> <p>【生息環境】 主に平地や丘陵地の水生植物が繁茂する小河川に生息し、水質が清浄な水域にのみ生息する。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布する。国外ではヨーロッパからシベリアを経て朝鮮半島、中国東北部に分布する。県内では美濃地方の岐阜市、関市、美濃市、本巣市などに確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武芸川地域、武儀地域＞</p>
<p><b>フタスジサナエ</b> <i>Trigomphus interruptus</i></p> <p>トンボ目 サナエトンボ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 腹長は 32～35mm で、オグマサナエやメガネサナエに似るが、胸の横の黒条が 2 本あることが識別点である。</p> <p>【生息環境】 平地から丘陵地にかけての古い溜池で見られる。平地や台地にある浅い池沼や水田など、止水域に生息する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州中部から四国、九州南部にかけて分布している。しかし、分布は一様ではなく、山陰地方や九州では大きな空白地帯がある。県内では、美濃市、加茂郡などで確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武芸川地域＞</p>
<p><b>マイコアカネ</b> <i>Sympetrum kunckeli</i></p> <p>トンボ目 トンボ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅の長さ 25mm 前後のトンボである。いわゆる赤トンボと呼ばれるトンボの仲間、体は橙色である。顔面は黄白色で 2 つの黒い眉斑がある。腹長は 24mm 前後である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯の低地や丘陵地の抽水植物の繁茂した腐植栄養型の池沼や湿地に生息する。海岸沿いの汽水沼にも見られる。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布する。国外では朝鮮半島、中国東北部などに分布する。県内では美濃地方の海津市海津町、笠松町、岐阜市、関市などに確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>ヒメハルゼミ</b> <i>Euterpnosia chibensis chibensis</i></p> <p>カメムシ目 ゼミ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体長 25mm 前後の小さなゼミで、全体が緑色で黒斑と緑褐色斑が混じるが、腹部は褐色である。雌の産卵管は長く後方に突出している。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯の沿岸地から低山地の常緑広葉樹林などの樹林に生息する。樹齢の高い薄暗い林に多く見られる。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州、四国、九州、屋久島、奄美大島などに分布する。県内では揖斐川町谷汲、本巣市根尾、郡上市八幡町、美濃市、多治見市などに確認記録があり、美濃地方の丘陵地～低山地に局地的な生息場所が知られている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：洞戸地域、武芸川地域、関地域、武儀地域＞</p>
<p><b>タガメ</b> <i>Lethocerus deyrollei</i></p> <p>カメムシ目 コオイムシ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 45～65mm 前後になる大型の水生昆虫で、体は褐色である。前足は腕の部分が太く先には鋭いつめがある。口はゼミのような細長い棒状である。</p> <p>【生息環境】 低地～丘陵地にある水生植物が繁茂した池沼、水田、用水路などに生息。特に本種は肉食性なので獲物が獲りやすい止水域に多い。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。国外では朝鮮半島、中国、インドなどに分布する。県内では各務原市、可児市、関市、岐阜市に確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>

## 昆虫類

<p><b>ヒメタイコウチ</b> <i>Nepa hoffmanni</i></p> <p>カメムシ目 タイコウチ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 全長 20mm 前後で、体は黒褐色である。前足は腕の部分が太く先には鋭いつめがある。口はセミのように細長い棒状である。体の後ろについている呼吸管は長い。</p> <p>【生息環境】 水生昆虫で湿地に生息するが、生息場所は湧水付近のコケの間や、水深の浅い湿地や小さな水路の落葉間や水草の根ぎわなどである。</p> <p>【分布状況】 東海地方と兵庫県の限られた狭い範囲に分布する。国外では中国、朝鮮半島、ロシアに分布する。県内では美濃地方の各務原市、関市、多治見市、土岐市、恵那市、瑞浪市などに確認記録が見られ、主として東濃地域に分布する。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>ミヤマチャバネセセリ</b> <i>Pelopidas jansonis</i></p> <p>チョウ目 セセリチョウ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさ 33mm 前後の蝶である。翅の表面の地色は黒褐色、裏面は黄褐色で、全後翅ともに白色の斑紋がある。本種では後翅裏面の基部近くに明瞭な白紋がある。</p> <p>【生息環境】 適度に起伏がある地形で、山道、小溪谷、耕作地などが草地と混在する明るい環境に生息する。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布する。国外では朝鮮半島、中国北東部、ロシアのアムール地方に分布する。県内では産地は広く散在するが、生息地は狭く限られている。どこの産地でもそれほど生息数は多くない。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、洞戸地域&gt;</p>
<p><b>スジグロチャバネセセリ</b> <i>Thymelicus leoninus leoninus</i></p> <p>チョウ目 セセリチョウ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさ 25mm 前後の蝶である。翅の色は黄褐色で縁は黒褐色である。近似種にヘリグロチャバネセセリがある。</p> <p>【生息環境】 草原に樹林が混在する環境を好み、疎林、高原の別荘地の庭や道路沿いに生息する。草原の中央部より林縁部に集中する傾向がある。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、九州に分布する。種としては朝鮮半島、中国大陸、ロシア・アムール地方などに分布する。県内では山地帯に点在して確認記録がある。飛騨地方に多くの産地がある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、洞戸地域&gt;</p>
<p><b>ヘリグロチャバネセセリ</b> <i>Thymelicus sylvaticus sylvaticus</i></p> <p>チョウ目 セセリチョウ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさ 25mm 前後の蝶。翅の色は黄褐色で縁は黒褐色。近似種にスジグロチャバネセセリがある。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯～山地帯の日当たりのよい山地の草原などに生息する。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州に分布。国外では朝鮮半島、中国大陸、ロシア・アムール地方などに分布。県内では飛騨地方の高根村、朝日村、高山市、久々野町、宮村や美濃地方の可児市などに確認記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武儀地域 &gt;</p>
<p><b>ミドリシジミ</b> <i>Neozephyrus japonicus</i></p> <p>チョウ目 シジミチョウ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさ約 35mm の蝶である。雄の翅表は金属光沢のある緑色、雌は黒褐色で橙色、青紫色の斑紋の現われ方の組み合わせで 4 型に分かれる。後翅端に尾状突起がある。</p> <p>【生息環境】 食草ハンノキの自生する湿地に群れをなして生息することが多いが、山地では必ずしも湿地に生息するとは限らない。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州および周辺離島に分布する。国外ではロシア極東、朝鮮半島、中国東北部に分布する。県内では、ほぼ全域に生息地が知られる。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>

# 昆虫類

<p><b>フジミドリシジミ</b> <i>Sibatanoizephyrus fujisanus</i></p> <p>チョウ目 シジミチョウ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさは約 33mm で雄の翅表には薄い青緑色の金属光沢がある。裏は雌雄とも灰色が基調だが、帯状紋が他のミドリシジミ類と明らかに異なり区別は容易である。</p> <p>【生息環境】 一般的に標高 1000m前後のブナ林に生息するが、東濃地域ではイヌブナからも卵が確認されている。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。北海道から本種、四国、九州まで分布する。県内では、北アルプス山系、白山山系、伊吹山系を中心に分布するが、いずれも山深い原生林である。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、洞戸地域&gt;</p>
<p><b>ギフチョウ</b> <i>Luehdorfia japonica</i></p> <p>チョウ目 アゲハチョウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさ 50mm 前後の蝶で、翅全体が黄と黒の縞のだんだら模様となっており、後翅に赤・橙・青の斑紋がある。</p> <p>【生息環境】 低地から亜高山下部までの山地の広葉樹林に生息し、早春の日当たりの良い環境を好む。</p> <p>【分布状況】 国内では北海道から本州中部にかけて分布する。国外ではシベリア東部から朝鮮半島に分布する。県内では高山市奥飛騨温泉郷で記録がある。当県は本種の国内分布の西限とされる。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>
<p><b>ツマグロキチョウ</b> <i>Eurema laeta bethesaba</i></p> <p>チョウ目 シロチョウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさ 35mm 前後の蝶である。翅の色は黄色で前翅の縁には帯状に黒色の斑紋がある。キチョウに似ているが、より小型で前翅の先が角張っている。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯の河川の堤防や河原、田畑のあぜ道や路傍など背丈の低い草地に生息する。近年、造成地などの人工法面などにも発生している。</p> <p>【分布状況】 日本固有亜種。本州、四国、九州に分布する。県内では美濃地方の低地～丘陵地に確認記録が多い。また、2005 年以降、多治見市～可児市にかけて造成地の人工法面などに、外来種のマメ科植物を食草とした本種が少数採集されている。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武芸川地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>クワトゲエダシャク</b> <i>Apochima excavata</i></p> <p>チョウ目 シャクガ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた長さ 39～41mm の蛾である。体は毛に被われ、細長い翅には灰褐色の地色に白い筋状の紋がある。</p> <p>【生息環境】 桑畑やクワが手入れをされずに放置されたかつての桑畑、およびクワが自生する丘陵地や河川敷などの明るい解放地に生息する。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、九州に局地的に産し、隣県では長野、愛知に記録がある。国外では朝鮮に分布する。県内では岐阜市、山県市、各務原市で確認されている。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武芸川地域、武儀地域&gt;</p>
<p><b>タケウチエダシャク</b> <i>Biston takeuchii</i></p> <p>チョウ目 シャクガ科</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた長さ 65～71mm の大型の蛾である。翅は淡褐色で黒い筋状の紋がある。</p> <p>【生息環境】 低山地から山地帯にかけて、サクラ類の自生する落葉広葉樹林に生息する。人為的なソメイヨシノの並木からも発生する。</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布する。隣県では愛知、長野に記録がある。県内では高山市、山県市、下呂市、関市や可児郡などに記録がある。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：市全域&gt;</p>

# 昆虫類

<p><b>シロオビコバネナミシヤク</b> <i>Neopachrophilla albida</i></p> <p>チョウ目 シヤクガ科</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた長さ 65～71mm の大型の蛾である。翅は淡褐色で黒い筋状の紋がある。</p> <p>【生息環境】 ブナやミズナラなどを主体とした自然度の高い落葉広葉樹林に生息する。やや標高の高い渓谷沿いなどに生息する。</p> <p>【分布状況】 本州、四国に分布する。隣県では福井、石川、長野に記録がある。県内では高山市、飛騨市、白川村、郡上市、本巢市、関市などで生息が確認されている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>エゾスジヨトウ</b> <i>Doerriesa crambiformis</i></p> <p>チョウ目 ヤガ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 翅を広げた大きさが 23～30mm の蛾である。前翅は黄褐色をした湿地の蛾特有の色彩で白色の筋が入る。後翅は一様に白色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵帯や山地帯の湿地や草原に生息する。限定された環境に生息し、局地的な発生である。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州中部・北部に分布する。近年、愛知県などでも記録が出ている。県内では美濃地方の美濃市、瑞浪市に確認記録があるのみであるが、綿密な調査を行えばさらに分布域は拡大するであろう。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、洞戸地域、上之保地域＞</p>
<p><b>ゲンゴロウ</b> <i>Cybister japonicus</i></p> <p>コウチュウ目 ゲンゴロウ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 体長 35mm 前後で、上翅側縁に黄色条があり、体下面は黄色である。中後肢は遊泳に適した形態となる。</p> <p>【生息環境】 1年中水が涸れず水生植物が豊富で、大型魚類やアメリカザリガニがいない池沼に生息する。</p> <p>【分布状況】 北海道、本州、四国、九州地方に分布する。国外では朝鮮半島、シベリア、中国、台湾に分布することが知られている。県内では、関市、郡上市白鳥町、恵那市で確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>コクロオバボタル</b> <i>Lucidina okadai</i></p> <p>コウチュウ目 ホタル科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 体長 7 mm 前後のホタル。体は黒褐色であるが、前胸背には橙色の斑紋のあるものとないものがある。</p> <p>【生息環境】 低地～丘陵地にある湿地や、その周辺の土壌湿度の高い草地や林縁部に生息している。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州中部地方の岐阜県と三重県から確認されているのみ。県内では岐阜市、土岐市、関市、高山市で確認されている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武芸川地域、武儀地域＞</p>
<p><b>ヨツボシカミキリ</b> <i>Stenygrinum quadrinotatum</i></p> <p>コウチュウ目 カミキリムシ科</p> <p>環境省：絶滅危惧ⅠB類</p>	<p>【形態の特徴】 体長 8～14mm。体は赤褐色で、上翅中央部に 2 対の白紋がある。</p> <p>【生息環境】 コナラ、クリ、ミズナラなどの広葉樹林。特に中山間地の雑木林。</p> <p>【分布状況】 国内では本州、四国、九州、沖縄、国外では台湾に分布。県内では岐阜市、大垣市、各務原市、美濃市、関市、白川町、富加町などに確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武儀地域＞</p>
<p><b>トラフカミキリ</b> <i>Xylotrechus chinensis</i></p> <p>コウチュウ目 カミキリムシ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 体長 17～26mm の甲虫で、黄色と黒の縞模様でありスズメバチによく似ている。前胸は大きく膨れ、頭が小さい。触覚は短く脚が長いのが特徴である。</p> <p>【生息環境】 クワの生木およびその周辺に生息する。かつて各地にあった養蚕用の桑畑は格好のすみかであった。</p> <p>【分布状況】 国内では北海道から沖縄県までの日本全国に分布する。国外では台湾、朝鮮、中国に分布する。県内では高山市、飛騨市、下呂市、郡上市、美濃市ほか多数の確認記録がある。しかし、最近の記録は少ない。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>

## 貝類

<p><b>ベニゴマオカタニシ</b> <i>Georissa shikokuensis</i></p> <p>アマオブネガイ目 ゴマオカタニシ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 殻の高さ約 2 mm のごま粒のような小さい陸産巻貝である。色は赤褐色で、革質の蓋がある。</p> <p>【生息環境】 石灰岩地帯の沢筋や山腹斜面地で、石灰岩質の湿った礫の多い場所に生息する。(石灰岩地固有種。)</p> <p>【分布状況】 本州、四国、九州に分布する。県内では美濃地方の大垣市、養老町、揖斐川町、山県市、郡上市、美濃市、関市などの石灰岩分布地域で確認の記録がある。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：板取地域、洞戸地域、武芸川地域、関地域、武儀地域＞</p>
<p><b>マルタニシ</b> <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i></p> <p>ニナ目 タニシ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 殻の高さ 60mm、直径 47mm 程になる丸くくびれた淡水産巻貝である。色は暗緑褐色でにぶい光沢がある。殻口外唇はやや厚くわずかに広がって漆黒色になる。</p> <p>【生息環境】 冬季、極端に乾燥したり凍結したりしない暖地の平野部の水田や浅い池沼、流の緩やかな小河川の泥底に生息する。</p> <p>【分布状況】 全国に分布する。国外では朝鮮半島に分布する。県内では海津市、大垣市、羽島市、岐阜市、美濃加茂市、関市、中津川市、高山市、飛騨市、輪之内町、養老町、垂井町、池田町、大野町、揖斐川町などに記録があるが、個体数は少ない。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：市全域＞</p>
<p><b>ヤマメタニシ</b> <i>Blanfordia integra</i></p> <p>ニナ目 イツマデガイ(カヤガイ)科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅰ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 殻の高さ約 4mm の小型陸産巻貝である。殻は卵状の円錐形で、色は灰褐色である。薄くてつぶれやすい。螺旋の数は 5 層である。</p> <p>【生息環境】 石灰岩が分布する山地の沢筋に生息し、湿った礫や落葉の多い場所などに見られる。伊吹山では、山頂近くの低木帯の小さい礫や落葉下に生息する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。本州の秋田県～島根県の主として日本海側に分布する。県内では美濃地方の揖斐川町、垂井町、本巣市、山県市で確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：市全域＞</p>
<p><b>クロダカワニナ</b> <i>Semisulcospira kurodai</i></p> <p>ニナ目 カワニナ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 殻の高さ 40mm 程になる淡水産巻貝である。殻は黒っぽい汚れをとると黄緑褐色で暗褐色の色帯を示すことがある。カワニナや巻筋の多いチリメンカワニナより細長い。</p> <p>【生息環境】 流れが緩やかな河川の中流にあるダム湖や下流の浅い泥底に生息する。ため池などでも、比較的浅い岸に近い場所の泥底に生息している。</p> <p>【分布状況】 静岡県～広島県に局地的に分布する。県内では、関市、川辺町、笠松町、羽島市、海津市など木曾三川の中・下流域で確認記録があり、分布域は美濃地方の低地に限られる。当県は分布の北東限にあたる。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：関地域＞</p>
<p><b>オオコウラナメクジ</b> <i>Nipponarion carinatus</i></p> <p>マイマイ目 オオコウラナメクジ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 軟体は褐色でこうら部分と腹足面を除けば、全体に淡色の小斑紋に覆われる体長 35mm 程のなめくじ形陸産貝類である。体の 1/3 を占めるこうら部分から覗く頭部は黒い。こうら部分の後方は尾端まで著しい稜角になる。</p> <p>【生息環境】 落葉林内の林床に生息する。石灰岩地域での確認例が多い。</p> <p>【分布状況】 山形県以南～四国、九州にまで分布するが個体数は多くない。県内では飛騨市、高山市、郡上市、七宗町、山県市、本巣市、揖斐川町、垂井町、大垣市、関市で確認されている。 ＜関市内で生息の可能性がある地域：市全域＞</p>

## 貝類

<p><b>ミドリベッコウ</b> <i>Bekkochlamys kagaensis</i></p> <p>マイマイ目 ベッコウマイマイ科</p>	<p>【形態の特徴】 殻は薄く半透明で、高さ 11mm、直径 16mm 程の偏球形をした陸産巻貝である。色は緑味のある黄褐色で光沢が強い。</p> <p>【生息環境】 良く保全された自然度の高い落葉広葉樹林の林内や林縁の朽木や落葉の下など湿度の高い場所に生息する。</p> <p>【分布状況】 本州中部に分布し、当県と隣接する福井、石川、長野と静岡の各県に分布している。県内では美濃地方の平野部を除けば全県的に確認記録がある。東部では愛知県境でも記録されている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>レンズガイ</b> <i>Otesiopsis japonica</i></p> <p>マイマイ目 ベッコウマイマイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 殻はうすく半透明な凸レンズ形で、直径 13mm になる陸産巻貝である。色は淡い黄褐色で、周縁の竜骨は鋭い。</p> <p>【生息環境】 城跡や歴史的に古い神社、仏閣にあるツブラジイ、アラカシなどの常緑広葉樹林の周辺に生息する。</p> <p>【分布状況】 本州の千葉、神奈川、山梨、静岡、福井、兵庫、島根と九州の大分、熊本、宮崎、鹿児島各県に分布地が点在する。県内では、美濃市、揖斐川町で確認記録があるが、1979年7月揖斐川町（旧谷汲村地域）で確認以後の記録がない。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域、武芸川地域＞</p>
<p><b>コシタカコベツマイマイ</b> <i>Satsuma fusca</i></p> <p>マイマイ目 ニッポンマイマイ（ナバンマイ）科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 殻の高さ 40mm、直径 44mm 程になる大型陸産巻貝である。色は赤褐色～淡黄褐色で周囲に濃い色帯がある。殻口外唇はやや厚く赤紫色になる。</p> <p>【生息環境】 アカマツの混じる、コナラ林からミズナラやブナ林の広がる温帯落葉広葉樹林の林床に生息する。</p> <p>【分布状況】 近畿北部～北陸、中部地方に分布する。県内では、中津川市、白川町、本巣市、関市、大垣市、垂井町、揖斐川町、郡上市、下呂市、高山市、白川村、飛騨市で確認記録がある。分布は広範囲であるが、個体数は少ない。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>ヤマタカマイマイ</b> <i>Satsuma papilliformis</i></p> <p>マイマイ目 ニッポンマイマイ（ナバンマイ）科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 殻の高さ 31mm、直径 25mm 程になる卵形の陸産巻貝である。色は淡黄褐色で周囲に細い淡い茶褐色の線があることが多い。殻口外唇は広がって乳白色になる。</p> <p>【生息環境】 自然度の高い林内や川沿いの朽木や落葉の下など湿度の高い場所に生息する。石灰岩分布地域では比較的個体数が多い。</p> <p>【分布状況】 本州の長野県中南部から北陸、近畿、中国中北部に広がって広島県東部に分布する。県内では美濃市、本巣市、山県市、大垣市、垂井町、揖斐川町、池田町、郡上市、関市、八百津町、白川村、高山市、飛騨市などに確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：市全域＞</p>
<p><b>ハクサンマイマイ</b> <i>Euhadra latispira</i> <i>latispira</i></p> <p>マイマイ目 オナジマイマイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 殻の直径 50mm になる陸産巻貝である。殻は光沢が強く、色は黄褐色～濃赤褐色で、茶褐色の筋があることが多い。軟体の背面に黒い色帯が見られる。</p> <p>【生息環境】 ブナ帯上部から亜高山帯のダケカンバ、チシマザサ、シシウドの群落地域にかけて生息する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。この原種は主として白山山系に分布する。石川県、福井県などで確認記録がある。県内では白川村、本巣市、揖斐川町などの県境一帯に分布している。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：板取地域、上之保地域＞</p>

## 貝類

<p><b>ナミマイマイ</b> <i>Euhadra sandai communis</i></p> <p>マイマイ目 オナジマイマイ科</p> <p>岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 殻長4cm程度の大型種である。別系統のヒラマイマイと非常に近似しているが、軟体部に濃褐色の太い縦線があるので区別できる。</p> <p>【生息環境】 良く保全された自然度の高い林内の朽木や落葉の下など湿度の高い場所に潜んでいる。</p> <p>【分布状況】 主として滋賀県から兵庫県にかけての近畿地方に分布する。県内では美濃地方の大垣市、富加町で確認記録があり、分布域は濃尾平野の低地に限定するものと考えられる。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>ヒルゲンドルフマイマイ</b> <i>Trishoplita hilgendorfi</i></p> <p>マイマイ目 オナジマイマイ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 殻の高さ8mm、直径11mm程になる陸産巻貝である。色は赤褐色～黄褐色で鈍い光沢がある。殻口外唇はやや厚く広がって淡色になる。</p> <p>【生息環境】 石灰岩地域の高茎草原や夏季は涼しくて湿り気がある落葉広葉樹林帯の林縁草地に見られることが多い。</p> <p>【分布状況】 滋賀県東部、三重県北部、当県中・西部に分布する。県内では美濃市、本巣市、山県市、関市、大垣市、養老町、垂井町、関ヶ原町、揖斐川町、大野町、池田町、郡上市などに確認記録がある。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：武芸川地域、関地域＞</p>
<p><b>オバエボシガイ</b> <i>Inversidens brandti</i></p> <p>イシガイ目 イシガイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p>【形態の特徴】 日本産イシガイ科貝類としては最も小型種で殻長は約5cm、輪郭は方形に近い。殻頂付近には弱い縮緬状の彫刻がある。収足筋痕は前閉殻筋痕とつながる。</p> <p>※関市に生息しているのはオリエボシガイあり、オバエボシガイの亜種である。環境省レッドリストではオリエボシを亜種として区分しておらず、ここではオバエボシガイと記載する。</p> <p>【生息環境】 本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、水量が多く、水質の良い砂泥底を生息場所としている。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。当県より西の本州から九州に分布する。本種の属するイシガイ科貝類全般の分布域が著しく減少しており、特に水質の良い場所を生息場所とする本種の分布域は非常に減少している。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>トンガリササノハガイ</b> <i>Lanceolaria grayana</i></p> <p>イシガイ目 イシガイ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 日本産イシガイ科貝類としては大型で殻長は15cmに成長する個体もある。また特に湖沼産の個体は大型になる。殻長に比べて殻高が著しく小さく細長く、後端はとがる。</p> <p>【生息環境】 本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、水量が多く、水質の良い砂泥底を生息場所としている。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。愛知県以西の本州から四国、九州に分布する。本種の属するイシガイ科貝類全般の分布域が著しく減少している。比較的普通に見られた本種の生息場所も近年著しく狭められている。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>
<p><b>カタハガイ</b> <i>Obovalis omiensis</i></p> <p>イシガイ目 イシガイ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 日本産イシガイ科貝類としては中型で殻長は約8cm、左右両殻ともやや強い三角形の1主歯を持つが後側歯はない。この特徴が片歯（かたは）という和名の由来である。</p> <p>【生息環境】 本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。当県以西の本州から九州に分布する。本種の属するイシガイ科貝類全般の分布域が著しく減少しており、特に水質の良い場所を生息場所とする本種の分布域は非常に減少している。 ＜関市内で生息の可能性のある地域：関地域＞</p>

## 貝類

<p><b>マツカサガイ</b> <i>Pronodularia japonensis</i></p> <p>イシガイ目 イシガイ科</p> <p>環境省：準絶滅危惧 岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 日本産イシガイ科貝類としては中型で殻長は約5cmであるが、湖沼産の個体は大型になる。殻長に比べて殻高がやや小さく楕円形で、殻のほぼ全面に強いさざ波状の彫刻がある。</p> <p>【生息環境】 本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、水量が多く、水質の良い砂泥底を生息場所としている。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。北海道から本州、四国、九州にかけて分布する。本種の属するイシガイ科貝類全般の分布域が著しく減少している。比較的普通に見られた本種の生息場所も近年著しく狭められている。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>イシガイ</b> <i>Unio douglasiae nipponensis</i></p> <p>イシガイ目 イシガイ科</p> <p>岐阜県：絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p>【形態の特徴】 日本産イシガイ科貝類としては中型、殻長は約8cmであるが、湖沼産の個体は大型になる。殻長に比べて殻高が小さく細長い方形で、殻頂部分には弱いさざ波状の彫刻がある。</p> <p>【生息環境】 本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、水量が多く、水質の良い砂泥底を生息場所としている。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。北海道から本州、四国、九州にかけて分布する。本種の属するイシガイ科貝類全般の分布域が著しく減少している。比較的普通に見られた本種の生息場所も近年著しく狭められている。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>
<p><b>マシジミ</b> <i>Corbicula leana</i></p> <p>マルスダレガイ目 シジミ科</p> <p>環境省：絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県：準絶滅危惧</p>	<p>【形態の特徴】 殻長30mm程度の三角形に近い形をした二枚貝である。殻表の成長脈はやや荒く、殻の色彩は黄褐色から黒色である。</p> <p>【生息環境】 丘陵部から平野部の河川中・下流域の本流から支流、用水路、湖沼の砂泥底に生息する。</p> <p>【分布状況】 日本固有種。東北から九州に分布する。カネツケシジミを含むタイワンシジミ類が日本に移入、定着した例は、1985年岡山県で最初に確認され、その後兵庫県など西日本において報告されている。</p> <p>&lt;関市内で生息の可能性のある地域：関地域&gt;</p>